

第1回 令和プロテクト・トーク「消防関係機関と市長の対話」

要約

日 時：令和4年6月14日（火） 18:00～18:30

場 所：消防局2回多目的ホール

出席者：消防関係4機関（16名）

- 薩摩川内市市：田中市長・上戸市民安全部長・遠矢市民安全部次長
- 薩摩川内市消防局：佐多消防局長・濱田警防課長
- 薩摩川内市消防団：宮里団本部副団長・石塚中央大隊長・山本西部大隊長
西東部大隊長・平嶺上甕大隊長・下野下甕大隊長
山ノ内団本部本部員・中満活動活性化等委員長
- 消防後援会連合会：下園会長・加治屋副会長・外菌事務局長

■あいさつ 田中市長

市長就任から1年7か月になり、就任当初から消防団、消防後援会の皆様、消防局職員と市長管理者の4機関のコミュニケーションの場が必要だと考えていたが、コロナ禍であり、なかなか開催できなかった。

数回の下打ち合わせをし、マスコミ公開の下、合同会議が開催でき非常にうれしく思っている。

トークの場は、市長が広く市民の意見を聞く広聴の場の一環として、皆様の生の声、自分も思いを申し上げるが、消防組織がより良くなるような方向で議論を重ねていきたいと考えており、今日を機に、消防防災に係わる皆様と情報の共有、今後の統一行動のきっかけになればと思っている。

大隊長会議前の30分と設定されており時間が足りない部分があるが、共通のテーマが示された後、今日以降、4機関の色々な組み合わせで深掘した議論を自由にしていただきたいと考えている。様々なプロテクト・トークのご意見、要望については事務局である消防局局長、警防課長に直接伝えていただければ意見を集約し、4機関に情報を発出する仕組みになっているので運営について協力をお願いします。



市長あいさつ

■協議 座長：田中市長

消防団の確保に向けた取り組みについて

座長

各機関でこれまで取り組まれてきたことと成果、特に課題を発言いただきたい。



薩摩川内市消防団

宮里副団長

私は女性消防団として20年になる。これまで団員の増減があり自分達でチラシを作ったりなどして募集を掛けたりしていた。

考えるのは消防団がなぜ大切か、必要性を地域の皆様、我々団員もしっかりと把握をしたうえで確保に取り組まなければならないと思っている。

石塚大隊長

FMさつまсенだいで春秋の火災予防運動週間に団員募集のPRをしているが、なかなか団員確保につながっていない。同年代で団員を勧誘し団員を増やしているところがあるが、地方では人口減少が進み、団員確保に苦労している。

消防団員は地域PTAや地域行事に参加する等、期待されているところがあり、仕事量が多いなど不平不満も出てきている。

中満活性化委員長

活動活性化等委員会ではPR活動をしているが、勧誘の際に障害となっているものについて、活性化委員会で共有し対応策を検討しながら、障害を少しでも払拭していけるように幹部会議等に提言していきたいと考えており、消防団のイメージアップを図っていきたいと考えている。

座長

活性化委員会の活動は、トークの発足の趣旨とテーマに合っているので今後もお願いしたい。



消防後援会連合会

下園消防後援会長

私も合併前は分団長をしていた。当時、私のいた分団は団員も多くいたが、人口も減り、定員割れの状態である。隣の分団についても詰所の統廃合もあったが、定数が割れの状態となっている。このような状況が続けば、分団の定数の見直し、大隊の集約だと思う。今、中学校に集約されているように水引に集約するとなれば、川内西方面隊は各分団を部にするなどしていかなければ、後援会長として各家庭を回っているが、回るところもないぐらい若い人がいないし、夜勤や残業でいないと言われればどうしようもない。

抜本的な改革をお願いしたい。

座長

団員定数の確保と、後援会長としての大きな提言として受け止める。



薩摩川内市消防局

佐多消防局長

消防局としてはこれまで、消防団員の災害現場等における安全管理体制の強化や、活動環境の充実を図ってきたところである。

団員が災害現場等で安全に活動できるよう、編上げ靴の購入や、消火活動時に着用する防火服一式を購入しました。また車両については、小型動力ポンプ積載車について、これまで活動時に重量のある小型ポンプを団員自ら積み下ろすなど、体力的負担が大きかったところを、団員からの要望もあり、積載したままでも消火活動できる仕様に替えるなど対応してきたところである。

また、団員の処遇改善として、出場報酬を 8,000 円に引き上げたことや、消防団行事の出席数を減らすなど、幹部会議等で議論を重ねて処遇改善にも取り組んできているところであり、これらがひいては新入団員の確保にも繋がればと考えているところである。



薩摩川内市

上戸市民安全部長

市役所の取組としては、新規採用職員の研修において地域貢献を伝えながら、消防団活動、自治体活動の必要性を伝えているところである。

消防団員に加入している市職員は多く、勤続 20 年以上の職員には、平成 30 年度から表彰制度を設けた。勤務において功績のあったチームや個人に対する職員表彰制度である。

座長

私も市職員で、下東郷分団に消防団員として 20 年間在籍していた。

当時、説得に来られたのは分団幹部の先輩で、市職員で未入団の私に対し入団をお願いされ、消防団の意義、頼み方について、断る理由が全くなかった。現在の消防団員のイメージや人口減少など、注視しなければと考える。

■提案

座長

今日の会議の集約として、宮里副団長から発言を求められているのでよろしくお願いします。

宮里副団長

消防団として、時代の流れの変化を真摯に受け止め、消防団活動も時代の流れに寄り添って変えていかなければならないと考えている。また、それと同時に、消防団は地域防災の中核として存続していかなければならないと切に願っている。

これまでの消防団の固定概念を捨て、若者や女性がやりがいを感じながら活動しやすい組織にしていく必要があると思う。そのためには私達消防団幹部が積極的にアクションを起こし、団員確保に力を入れていかなければならないと考えた。

そこで提案ですが、9月1日が「防災の日」で、9月9日が「救急の日」、そして11月は「秋季火災予防運動週間」もあるので、9月から11月までの3か月を消防団員確保の強化期間『プロテクトキャンペーン』として、プロテクト・トークの4機関が連携して取り組んではどうか提案する。

座長

ただいま、消防団から提案がありました。

本格実施まではいくらか時間があるが、9月、10月、11月を今、大きな課題となっている市消防団員確保の強化期間『プロテクトキャンペーン』とすることであるが、皆様、如何でしょうか。

出席者

はい

■協議集約

座長

消防団員確保は共通の課題なので、一体となってアイデアを出して取り組んでいきたいと考える。

座長としての提案であるが、各々、警防課に提案、提言、アイデアを含めて報告いただきたい。個人の役職としての考えや各機関で協議したものを警防課にお知らせいただければと考える。

イメージの問題であれば、今の若者が受け入れるようなマスコットを活用したり、全国消防職員意見発表会で最優秀賞を取った鶴永消防士長の事を広い意味で活用するなど、具体的な行動計画など、アイデアを出していただきたい。



協議の様子



消防団からの提言